

2025年度 入学者受入れの方針に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証（AP）

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証です。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 社会福祉学科

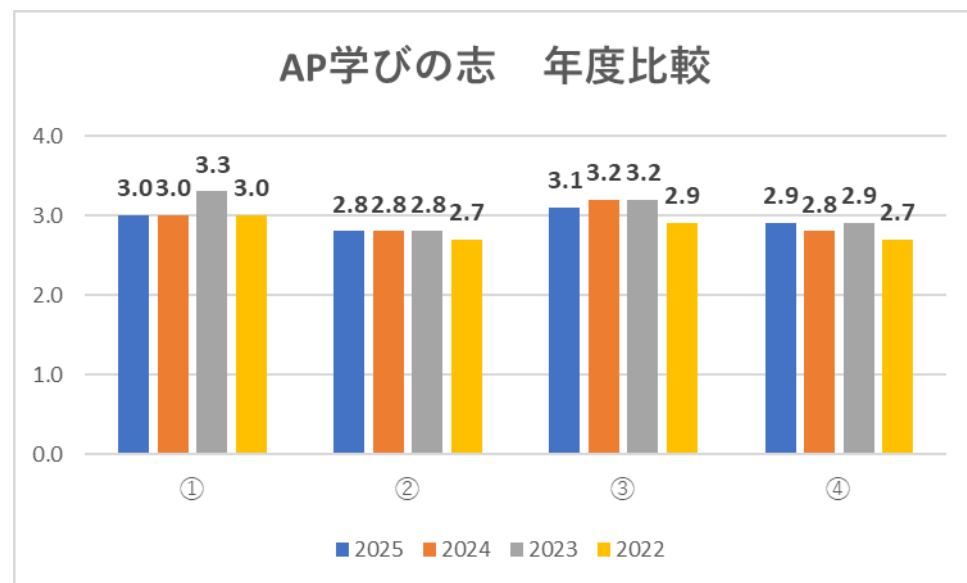
アドミッション・ポリシーに基づき「学びの志ふり返り」として、以下に示す4項目について5段階ルーブリック評価検証を行いました。

回答者は1年生217人（回答率：45.6%）で、2024年度の166人（回答率51.2%）よりも5.6ポイント減少しました。

参考資料：2023年度（223人：66.7%）、2022年度（333人：82.4%）、2021年度（246人：61%）2022年度（コロナ禍の影響で25人：6%）

以下に示す結果（図）は、各項目5段階（1～5点）の年次比較を示します。

- ① 私は、人間や社会に対する関心と探求心に富む人である
- ② 私は、社会に貢献する意欲を持っている人である
- ③ 私は他者とともに考え、ともに活動することに喜びを見いだしている
- ④ 私は、社会福祉の理論（知識）と実践を融合させ、社会福祉学について深めている



今年度の結果を、過去3年間の平均値と比較し“低いもしくは変化なし”の場合は、課題といえます。

【考察】

年次比較は、①～④のいずれの項目もほぼ横ばい傾向にありました。

今年度も基本的に全ての講義が対面授業であったため、1年次のリエゾンゼミⅠの演習内で自己評価の入力を行うことができました。しかし、昨年度と比較し、回答率が5.6%減となりました。

①～④は全て5段階評価の3点前後（中間点2.5以上）にあることから、入学者選抜の取組は概ね適切に行われていると思われます。項目間比較では、②と④が昨年同様にやや低い評価となっています。これは1年次の学びが座学中心になっている可能性があります。この点については、社会との関りを通じて社会福祉の知識を実践で試すことを積極的に行えるようにする必要があり、今後の課題といえます。